

**福岡大学法科大学院**  
**令和5年度C日程小論文試験**  
**出題趣旨・採点基準**

**【出題趣旨・採点基準】**

建築家の歴史に関するエッセイを読んで、内容を把握し、自分の言葉でその要点をまとめ、自分の意見を表明することが出題の趣旨である。文中には歴史だけではなく、古の茶道家や文化人だけでなく、現代のファッション・デザイナーやアート集団に関する名前も出てくるが、それに関する知識がなくても、文脈からどのような傾向を持った人なのかを推察することができるし、その推察に関して何らかのセンスが要求されるが、その受け取り方は必ずしも一様ではない。したがって、下記の参考答案の内容とは異なっても、文章の論理性や説得力、表現力につき評価を行っている。

**〈参考答案〉**

あくまでも、参考文案として、以下のような記述がなされているかについて検討した。

**設問1**

筆者は、歴史について、もっと派手なものでいいと考えている。それによって、歴史を積極的に現在や未来を応用できるようなものにし、より生きたかたちで使われるべきものと考えている。また、すでに形成された現在、事実として記述されてしまった断面構造である現在の、さらにその先へと際限なく続いていく連続体であるべきだと主張している。

**設問2**

歴史的建造物と向き合うときには当時の照明や建築などの技術環境、一般的な人たちの日常的な体験や知識のレベル、為政者の意図、政治状況、その他多くの事象を考慮したときに、何がどのような環境で合目的なのか、現在と当時の視点を、それぞれに相対化し、お互いを注意深く排除できるような、客観性をもった態度で見るときであるとする。

**設問3**

歴史とはわれわれが、動くこと、変化すること、先へ踏み出すことを強制するような時の流れであり、現在とはその中の一瞬の断面にすぎない。歴史は、とどまった瞬間に、時間の生成も止まってしまうため、それに動きを与えるような、あるいは従来の価値観を覆すような、インパクトやエネルギーをもって、時間や瞬間に動きを与えるものが生まれることが「派手な歴史」であると考えている。